

六師你命甲第八上邦

第六師團命令 十二月十日 一三〇  
於楊心橋西南方三家營

一 當面ノ敵ハ南京城南側台地ヲ占領シアリ

歩兵第三十六旅團正面ニアル敵ハ直系軍第八十八師ナリシ

モ、如シ第百十四師團ハ花神廟附近ヲ攻撃中第九

師團ハ南京城東南方四料高橋門、第十六師團ハ南

京城東北方六料盆路口附近及南京城北方四料幕府

山ヲ攻撃中ナリ

二 師團ハ一舉南京城ヲ占領セントス

三 右翼隊ハ當面ノ敵ヲ驅逐シ南京城南門中華門及

西南角ニ對シ攻撃スヘシ

四 左翼隊ハ逐次兵力ヲ西北方ニ移動シ水西門及漢西門ニ對シ攻撃スヘシ

騎兵第六聯隊ヲ配屬ス逐次迂回隊ヲ下關方面ニ出シ渡河妨害ニ任セシムヘシ

五 第一百十四師團トノ作戰地境及左右兩翼隊トノ戰鬥地境左ノ如シ

第六師團

第一百十四師團

間 南京城南門—朱家營線

右翼隊

間

宋家王(安德門西北五百米)—新開地—柏

左翼隊

間 庄、水西門ト西南角トノ中間線

六、砲兵隊ハ第一線ノ推進ニ伴ヒ安徳門東西ノ地區ニ陣地ヲ占領シ主力ヲ以テ右翼隊一部ヲ以テ左翼隊ニ協力スヘシ

七、工兵隊ハ西翼隊ニ各々二小隊ヲ増加配属シ爾餘ハ到着後予備隊ト共ニ位置スヘシ

八、予備隊ハ鐵心橋、西善橋ヲ經テ先ツ小米行ニ到ルヘシ

九、師團通信隊ハ前任務ヲ續行シ新ニ左翼隊ニ有線通信網ヲ構成スヘシ

十、衛生隊各々三分ノ一ハ左右西翼隊ニ續行シ傷者ノ收容ニ仕スヘシ

十一、予備隊ト共ニ先ツ小米行ニ到ル

師團長 岩 中將

下達法 豫メ要旨ヲ傳ヘ後命令受領者ニ口達筆記セム

別紙第

六師作命甲第八十一號

第六師團命令

十二月十三日一一〇〇  
於安徳門南側六師山

一、師團一部ヲ以テ城内及清涼山附近ノ攻撃ヲ續行スト共ニ主力ハ逐次南門外及西門外ニ集結セントス

二、前項部隊ノ集結地左ノ如シ

右翼隊、南門南側部落東部

左翼隊主力、西門外部部落附近

砲兵隊（野砲兵第六聯隊及野戰重砲兵第十四聯隊

第一大隊）三里店救濟院附近

師團司令部

師團通信隊

軍無線小隊

軍有線部隊

歩四五第一第四中隊

南門外

爾餘ノ部隊、集結地及細部ニ関シテハ參謀ヲテ指示セム

三、諸隊ノ行動開始ハ一四〇〇トス

師團長 岩中將

下達法、電話報ヲ以テ要旨ヲ傳ヘ後命令受領者ヲ集メ

口達筆記セム

別紙

大師作命甲第十四部別紙

軍隊區分

北警備隊

長 歩兵第三十六旅團長 牛島少將

歩兵第三十六旅團

騎兵第六聯隊

南警備隊

長 歩兵第十一旅團長 坂井少將

歩兵第十一旅團

野砲兵第六聯隊

工兵第六聯隊

輜重兵第六聯隊

備考

師團司令部、師團通信隊、軍無線小隊、北警備  
隊、區域内ニ位置ス

0252

六師作命第八十四號

第六師團命令於南門外司令部

十二月十四日一三〇

一、南京城内、其大部概未掃蕩セラレタルモノノ如シ

二、師團ハ南京西南部ノ警備ニ任セントス

三、諸隊ノ警備並宿營區域別紙要圖ノ如シ

(部ニハ文件他  
命令受領者ニ  
記入セシム)

城内宿營部隊ノ城内進入ハ十四日一四〇〇トス

四、警備上特ニ留意スルキ事項左ノ如シ

一、南京市内ニ位置セシムルハキ兵力ハ西警備区域内

各々歩兵三大隊ヲ限度トシ其ノ各々大隊長ヲ指揮

スルニ中隊ヲ以テ警備ニ任セシムルモノトス

二、歩兵第三十六旅團長ハ下関掃蕩後同地ニ所

要ノ警備兵力ヲ残置スヘシ

三、對空監視哨並對空射擊部隊ヲ設クヘシ

四、宿營部隊ハ努メテ分散シ爆撃ヲ避クルト共ニ給養

ヲ便ナラシムヘシ

五、南京城外宿營部隊各々外方ニ對シ警備スルモノトス

獨立機關銃第八大隊第三中隊

野戰重砲兵第十四聯隊第一大隊

獨立山砲兵第二聯隊(第二大隊欠)

獨立輕裝甲車第二、第六中隊

八、第一百十四師團長ノ區處ヲ以テ長興ニ前進スヘシ

六、各部隊(輜重兵第六聯隊ヲ除ク)ハ師團司令部トノ

間ニ有線通信網ヲ構成スヘシ

0254



七、師團通信隊ハ師團司令部ト北警備隊及輜重兵  
第六聯隊間ノ有線通信網ヲ、又蕪湖警備部隊  
トノ間ニ無線通信網ヲ構成スヘシ  
八、予八一五。現在地出發南京城内師團司令部ニ  
到ル

歩兵第四十五聯隊第四中隊ハ師團司令部直接  
警戒隊トス

同第一中隊ハ聯隊長ノ指揮ニ復歸スヘシ

師團長 谷 中將

下達法、命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム

注意

北警備隊ノ區域ノ一部ニ本十四日及十五日夜第十八師團ノ一部宿營ニ充當シアリ

0256

六師作命甲第八十五號

南京入城式ニ關スル命令

十二月十四日一。於南京南門外司令部。

十二月十七日南京入城式ヲ行ハル  
依ツテ尤、如ク心得ヘシ

一參加部隊

師團司令部

師團通信隊

歩兵第十一旅團

歩兵第三十六旅團

騎兵第六聯隊

野砲兵第六聯隊

工兵第六聯隊

輜重兵第六聯隊

獨立機關銃第八大隊第三中隊

獨立輕裝甲第二及第六中隊

野戰重砲兵第十四聯隊第一大隊

獨立山砲兵第二聯隊(第一大隊欠)

二參加人員

前項部隊中ヨリ隊長ニ於テ選定スヘキ人員別紙附

表ノ如シ

但シ軍旗ハ勿論大、中隊長ノ幹部ハ努メテ参加セシメ

ルモノトス

三整列位置

現場ニ於テ示スモ概テ中山路上ニ於テ國民政府建物  
東方一八。米明故宮南側中央附近ヲ右翼トシ中

山路上

四整列順序

師團司令部  
歩兵第十一旅團  
歩兵第三十六旅團  
騎兵第六聯隊  
野砲兵第六聯隊  
工兵第六聯隊  
師團通信隊  
輜重兵第六聯隊  
獨立輕裝甲第二第六中隊  
獨立機関銃中隊  
野戰重砲兵第十四聯隊第一大隊  
獨立山砲兵第二聯隊  
軍無線電信小隊

五、整列隊形

三列横隊トシ徒歩編成トス

六、服装

軍装（鉄帽防毒面ヲ除ク）略授佩用

七、整列時刻

一三〇〇

八、部隊ノ進入路及進入時刻

午前十一時ヨリ

九、標兵及連絡將校ノ派遣

各隊副官及兩翼分隊長ハ中山路上ト中正路ノ

交叉点ニ集合（米綱ヲ携行）

十、敬礼

司令官ニ對シ陸軍礼式所定ノ敬礼ヲ行フ

士師團長ノ行動

0259

師團長ハ一三〇部隊ノ右翼ニ在リ

敬礼後中支那方面軍司令官ニ隨行ス

幕僚及各部長ハ師團長ニ隨行ス之トス(乗馬)

中華民國政府建物内ニ於テ式ノ要領

ハ國旗掲揚 喇叭君カ代吹奏 参列者敬礼

口遙拜 萬歳三唱 堵列軍隊 萬歳ニ唱示ス

ハ乾杯

ニ参列者

司令官ニ隨行セルモノ

獨立部隊長及堵列ニ加ハラシテ將校中参列シ得ル

モノ(服装隊伍ニ列セル軍裝)

十三 敬言戒

中山路南側ハ第六師團ヨリ出ス

所要ノ補助憲兵ヲ以テス（集團憲兵隊長ノ指揮ヲ以テ）  
中山路北側ヲ派遣軍ノ任トス

由用散

部隊ノ用散ハ式場内ノ萬歳ニ唱和シタル後トス

師團長

谷中將

下達法

命令受領者ヲ集メテ達筆ヲ記セシム

0261

附表第一

輜重兵聯隊	工兵聯隊	山砲兵聯隊	重砲兵大隊	野砲兵聯隊	騎兵聯隊	步兵聯隊	步兵旅團司令部	師團通信隊	師團司令部
五〇名	八〇名	七〇名	一〇〇名	三〇〇名	八〇名	六〇〇名	一〇〇名	三五〇名	五〇名



獨立機関銃中隊  
輕裝甲車中隊  
軍無線小隊

四四  
五〇〇  
名名名

0263

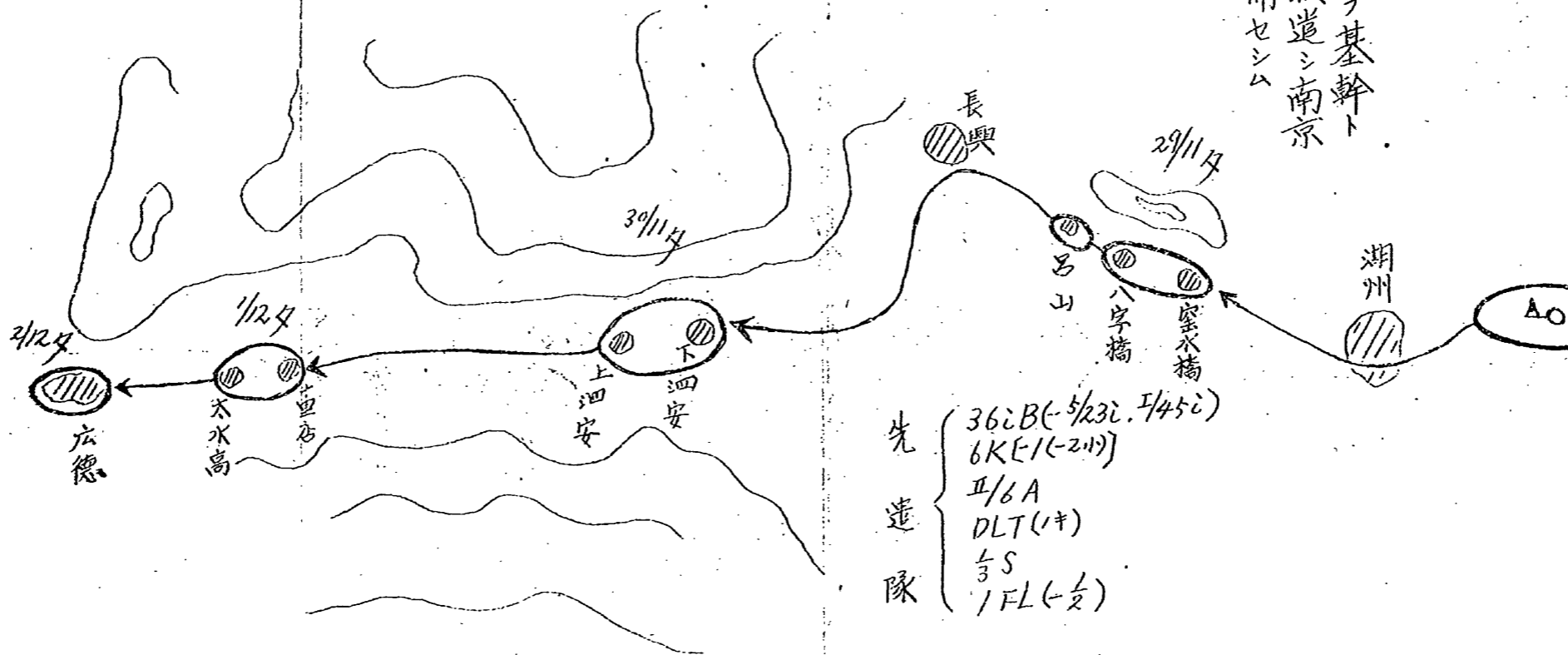
圖要進前ノ向ニ德廣隊遣先團師六第

(日ニ月ニ十至日九十ニ月一十自於)

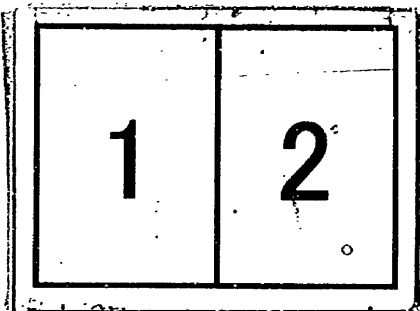
附圖第一

約  $\frac{1}{200,000}$

十月二十九日 36iB  
 スルモノヲ廣德ニ派遣シ南京  
 ニ向フ前進ヲ準備セシム



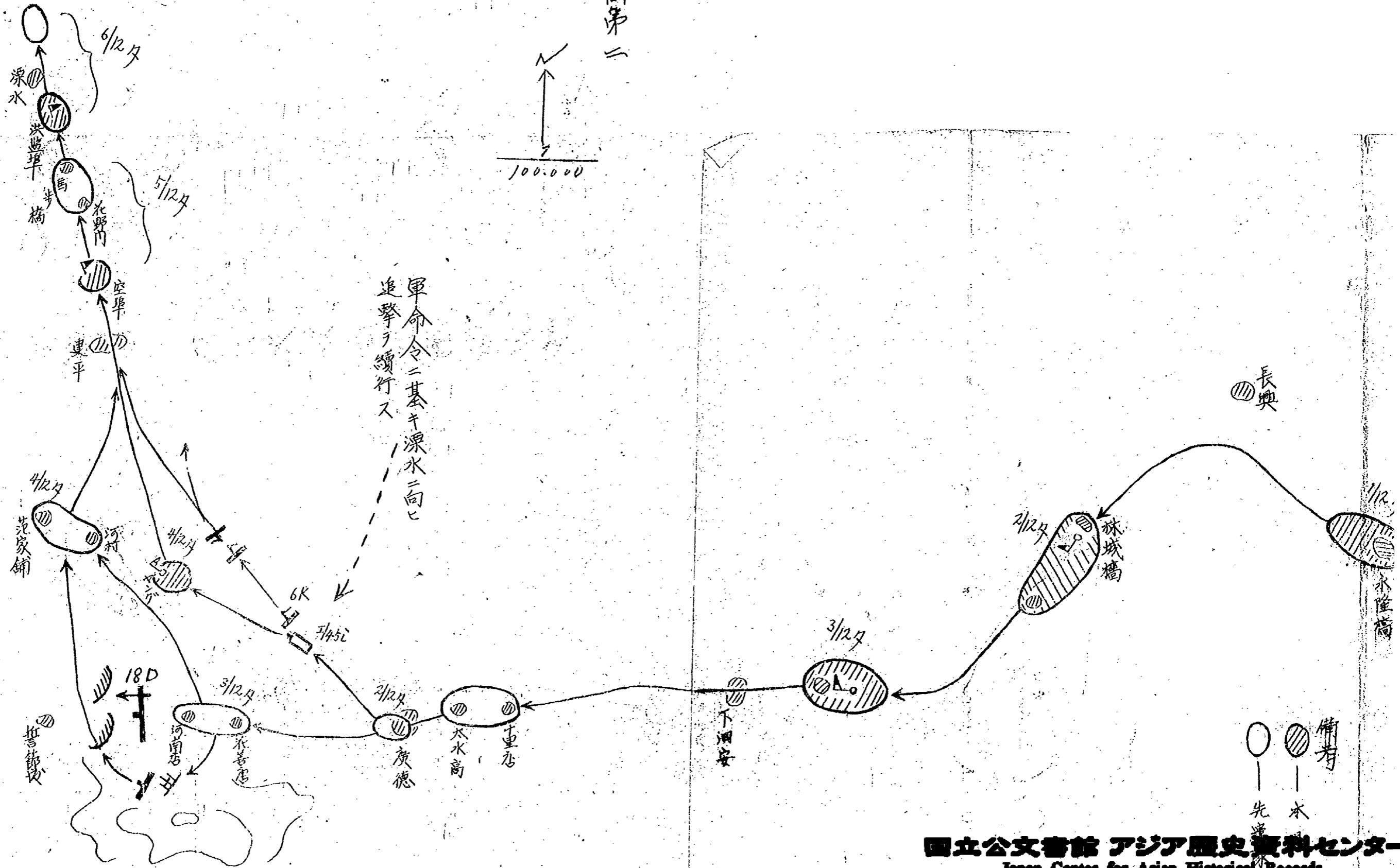
## 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A3版以上のため
文書等名	第六師團主力 漂水ニ向フ追撃要図 (於十二月一日至十二月六日)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

# 第六師團主力漂流水之追擊要圖

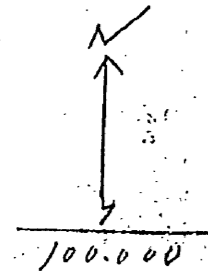
(於二十一月一日至二十月六日)

附圖第二

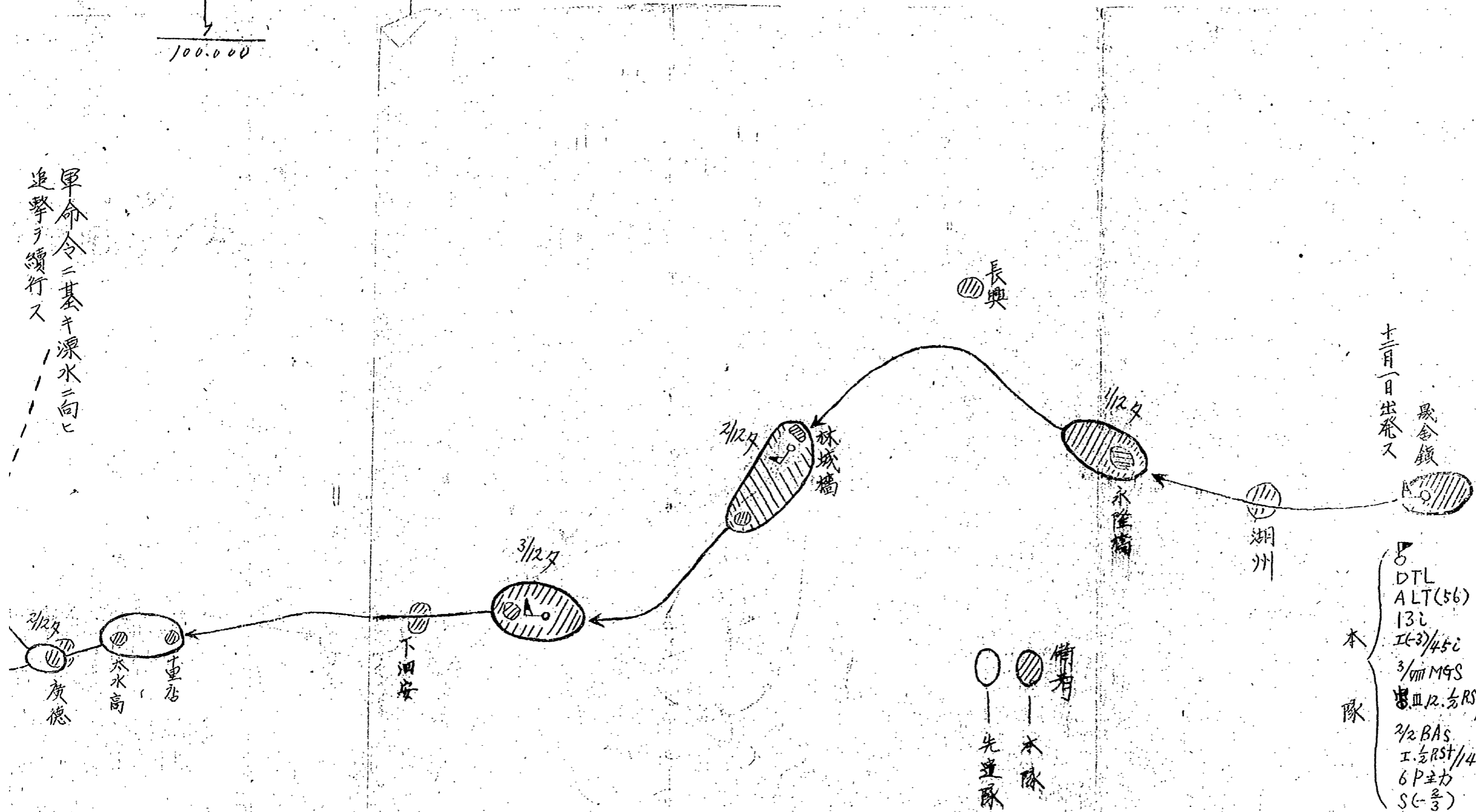


第六師團主  
 (於十月一日)

附圖第二



軍命令ニ基キ源水ニ向ヒ  
 追撃ヲ續行ス



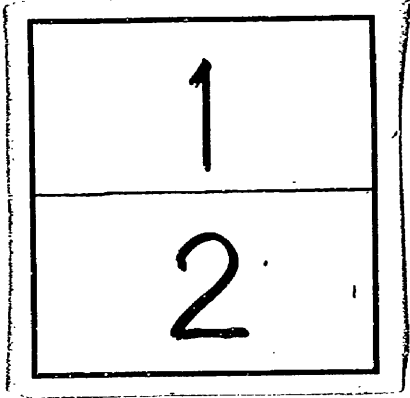
第二圖

十一月一日出發ス  
 最念鎮

- 本隊
- DTL
  - ALT(56)
  - 13i
  - I(-3)/45i
  - 3/000 MGS
  - III 12. 1/2 RST/6A
  - 2/2 BAS
  - I. 1/2 RST/4SA
  - 6P 主カ
  - S(-2/3)

○ — 先遣隊  
 ⊗ — 本隊

## 分割撮影ターゲット

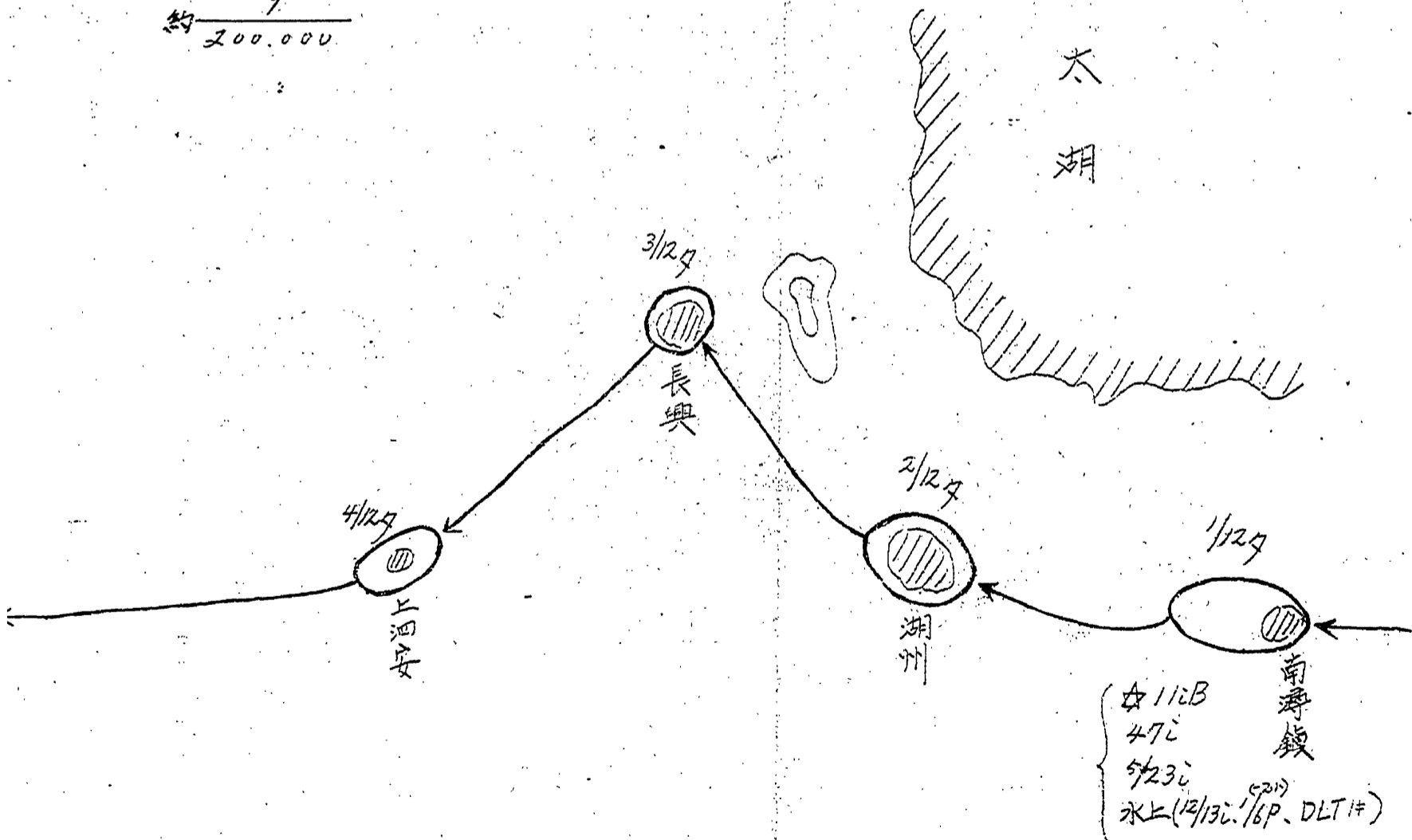
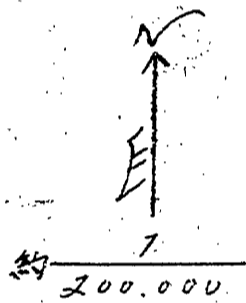
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3版以上のため
文書等名	六師團第二梯團 前進要図 (於十二月一日 1 \ 日)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

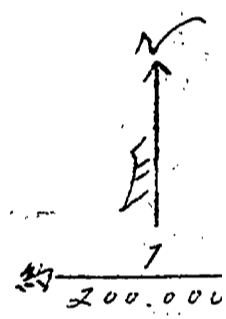
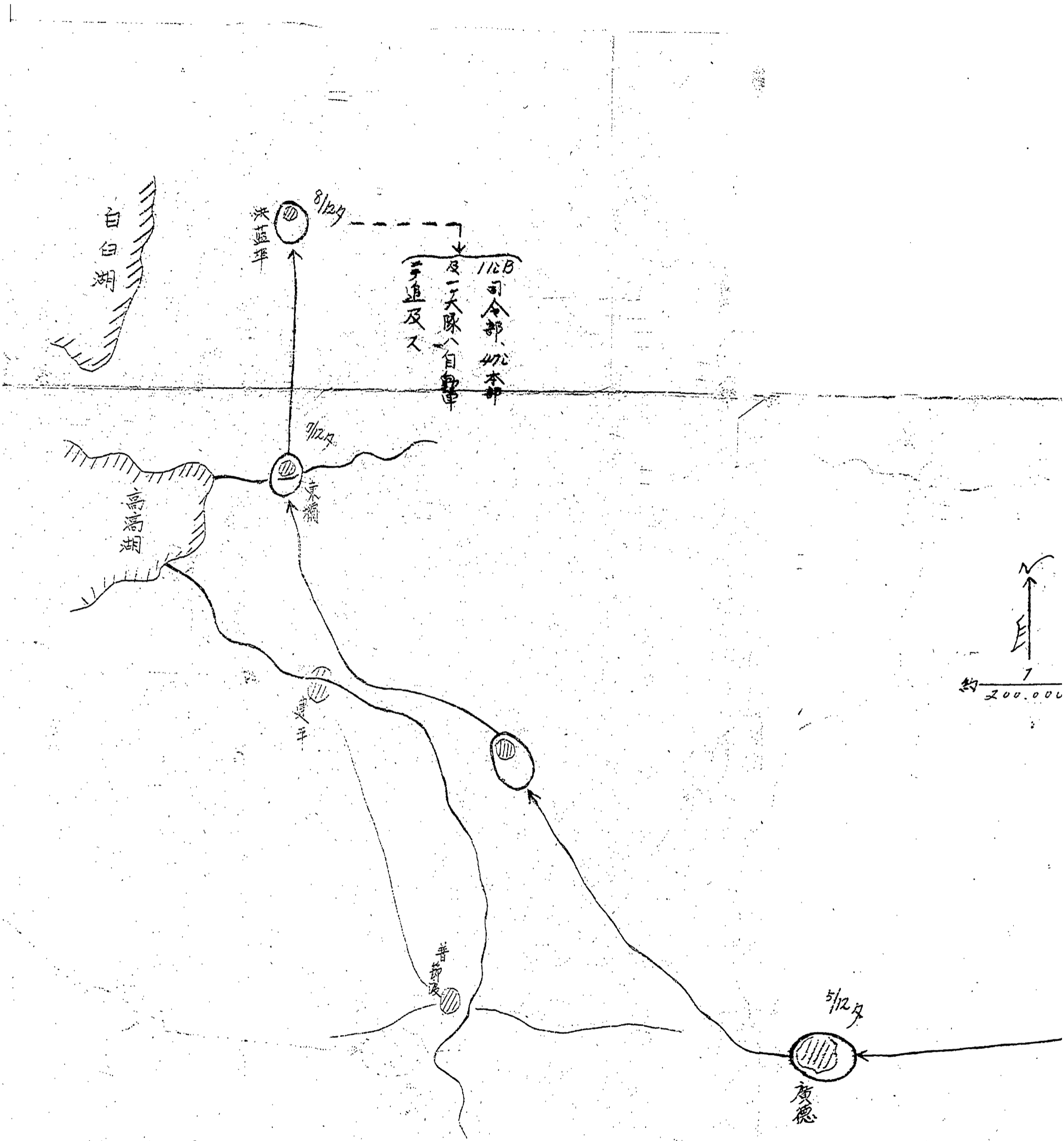
0267  
0268

# 第六師團第二梯團前進要圖

(於二十一日一月三日八日)

附圖第三





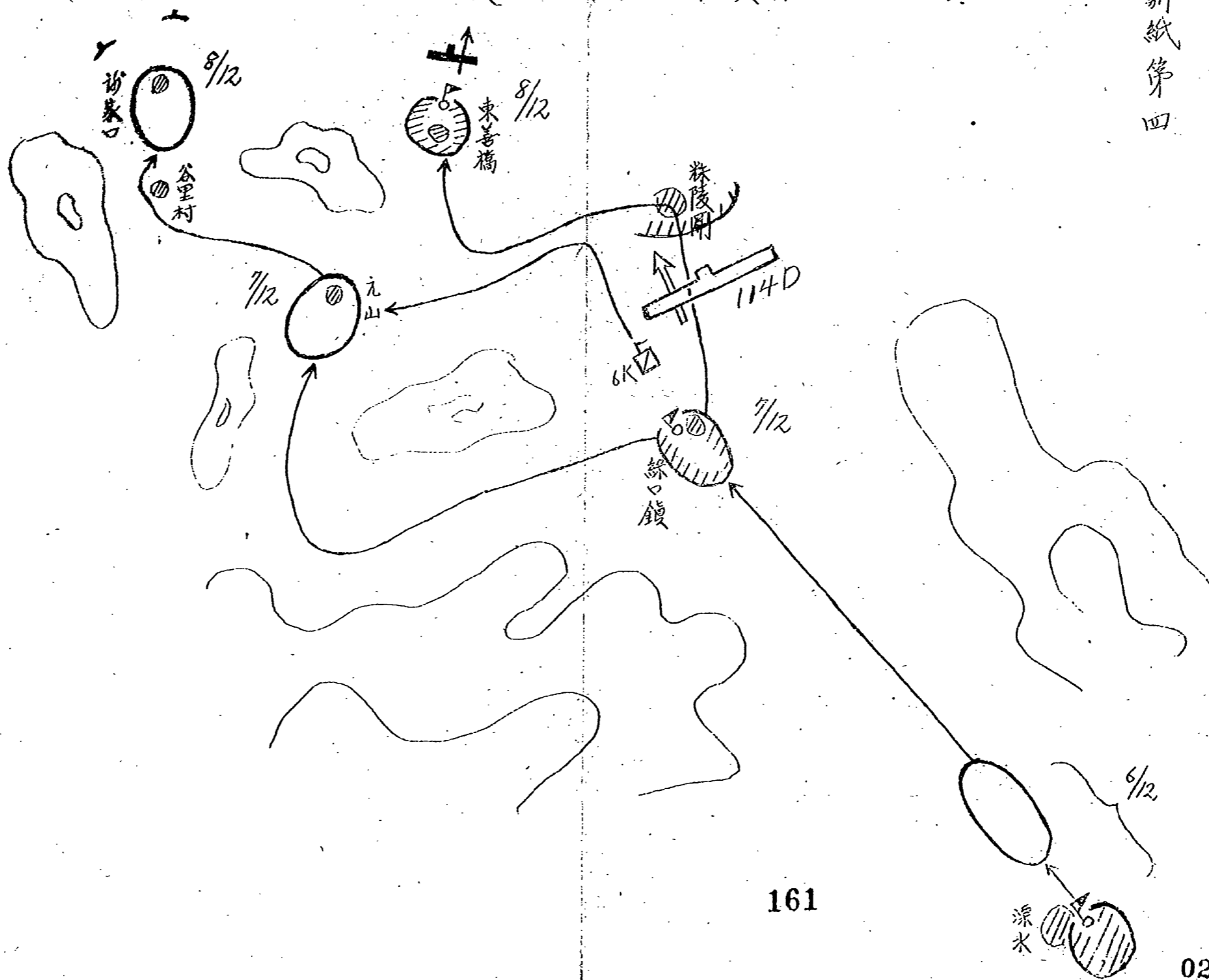


圖要置配進開，為，擊攻地障禦防部內京南圍師六第

(日八至日六月二十自於)

別紙第四

1  
100,000

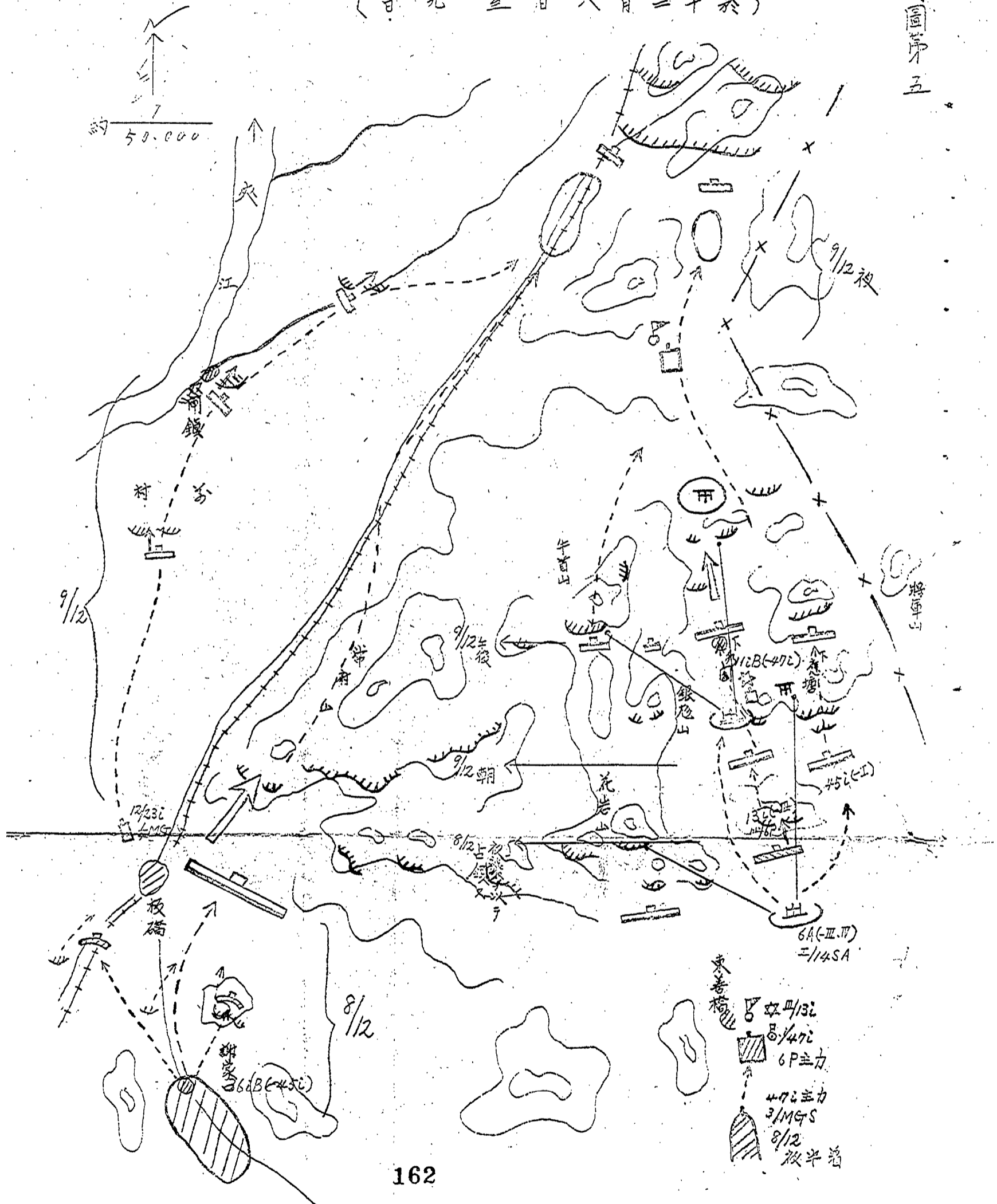


161

0269

圖要過經擊攻地陣禦防部內京南團師六第  
(日九三日八月二十於)

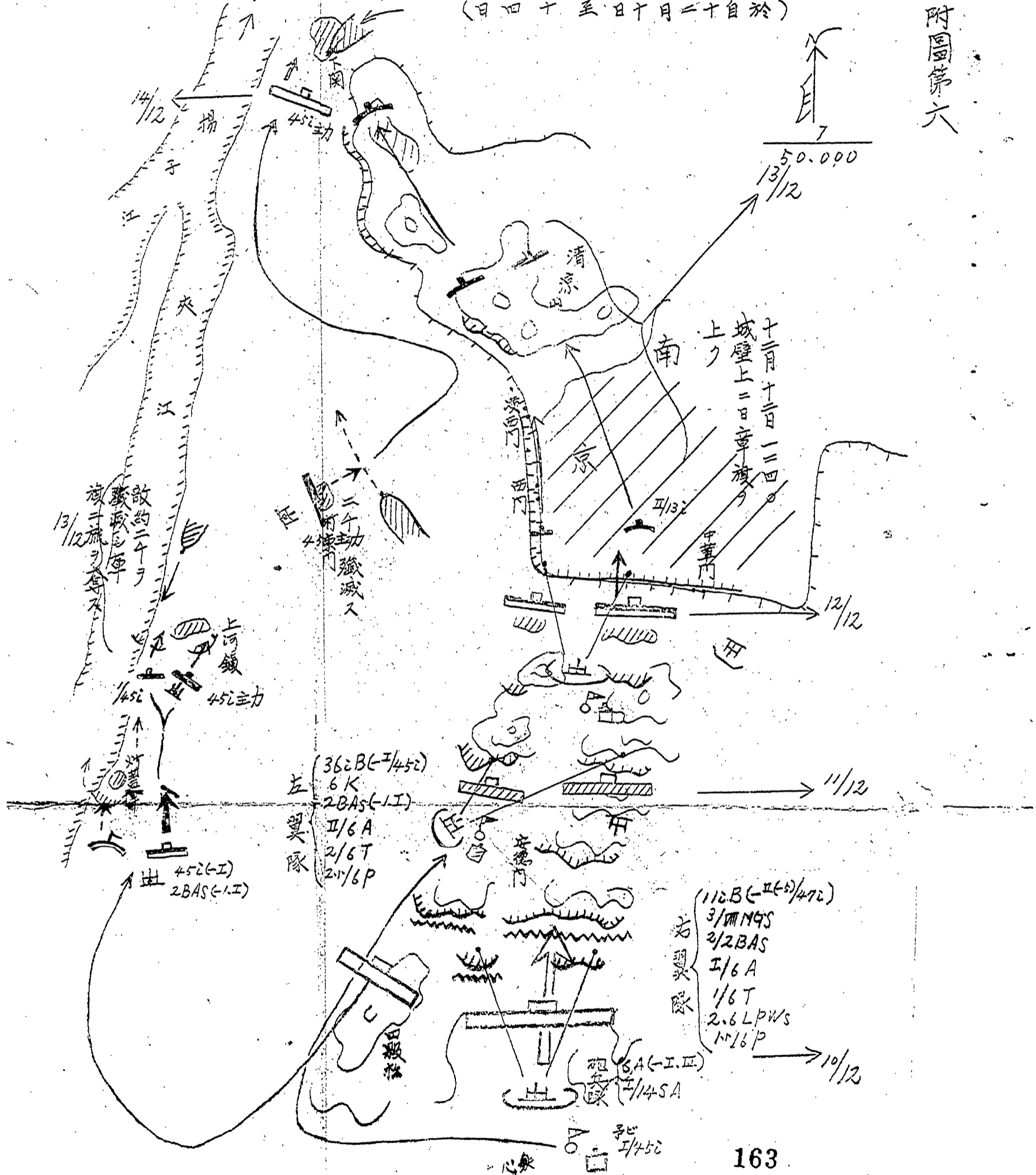
附圖第五



# 第六師團直捷防禦地擊經過要圖

(於自二十日十月至十四日)

附圖第六



昭和十二年十月一日部隊病馬旬報

第六師團獸醫部  
於石家

區分	舊患	新患	計	快復	転送	預託	斃死	瘡役撲殺	現存未斃
戦傷	二	四	六	二			一		二
傳染病	一	一	二				七	一	一
平病	三	九	一二	七					五
計	六	一四	二〇	九			七	一	八

備考一 未看部隊 第二野戰病院アルニ付後報ス  
ニ本表中主要ナル病名員数左ノ如シ

病名	新患	瘡斃撲殺
敗血症	一	斃一
強直病	九	斃六
腺疫	九	

三 馬衛生一般ノ狀況

師團大部(追撃隊ヲ除ク)ハ十月一日保定ニ於テ同月七日正定攻勢ヲ以テ  
道路ノ概ナ平地ナリ所々小湿地アリモ行軍ハ普通ニ馬ニ保護通ルニ  
行ハレ馬衛生一般ノ狀況ハ良好ナリ 馬糧ハ大小行李ノ追從意ヲ如クナラズ  
見地調辨ハ大麥 高粱 粟 豆 粟 玉蜀黍 等ニテ概テ戰時定ニ  
給ニ沐ニ切藪 青草 多給ニ努メタリ 飲水ハ井水 河水ヲ用ヒ豊盛ナリ

四 病馬、裝蹄及防疫ノ概況

平病馬ハ主トシテ鞍馬ニ發生セシ馬且傷ハモ一般ニ輕症ニシテ里志ト目  
ラレモハ發生數、約一割ニ又氣陰低下ニ伴ヒ鼻カタル發生ノ際疫ニ轉  
志セルモノ若干頭アルモ何レモ病型良好ニシテ輕症ニ経過スルカ  
裝蹄ハ殆ト行勤ノ爲實施セラレ得ス依テ保存日數延長ナルモ各部  
隊ハ機ヲ逸セズ逐次實施シテ雨後ノ行勤ニ支障ナシ

五 其他ノ意見  
六 師團病馬收容所ノ收容病馬九如シ

昭和十二年十月一日入廠病馬旬報

區分	舊患	新患	計	快復	転送	預託	斃死	瘡役撲殺	現存未斃
戦傷	二	二	四	二					二
傳染病	二	二	四						四
平病	二	六	八	七					一
計	六	一〇	一六	九					五

川 八  
川 四

昭和十二年十月自十一日部隊病馬旬報

第六師團 獸醫部  
於石家

區分	舊患		新患		計	復快	送轉	託預	死斃	役瘡	殺撲	現旬	在數
	患	新	患	計									
戰傷	二	一	九	四	一				一			一	〇
傳染病	一	三	〇	四	二				五			二	七
平病	七	四	九	八	二				三			五	五
計	五	八	一	〇	二				一			六	一
													二

備考一、本表中主要ナル病名ヲ負致テ、如シ

病名	選	新	瘡	斃	撲	殺
強直病	二					
先性盲行疹		四				
腺疫		二				

二、馬衛生一般狀況

正當攻撃後、師團、趙州内外ニ向テ行動開始セリ、終道路概不平等、地良好ナリ、馬糧ハ依然現地調劑、高粱大豆粟、王芻黍等、三ノ概不充足、量ヲ給付セザリ、本旬頃ヨリ氣温頓ニ低下シ、過剰ナル勞働、其ニ体力ノ消耗甚大ナル感作ヲ與ヘリ、飲水ハ井水河水ヲ用ヒ、豊臣田ナリヤ、

三、病馬、衰弱及防疫ノ概況  
病馬ハ主シテ馬具傷及過勞蹄葉炎等ニシテ衰弱ニ部ノ追々、醫隊ヲ除キ改善セザルヤリ、

又前記氣温低下及勞働關係等ヨリ腺疫納多矣、傾向、ランソ以テ之ヲ腺防ニシテ方全ク期シシアリ、鼻疽炭疽ノ防疫ハ防疫廠員ノ援助ヲ得一部ノ接種及接種ヲ實施セリ、

四、其他ノ意見 ナシ

五、師團病馬收容所ハ十八日閉鎖、馬廠ニ復歸セム

師團病馬收容所ノ收容病馬九、如シ

昭和十二年十月自十一日入廠病馬旬報

區分	舊患		新患		計	復快	送轉	託預	死斃	役瘡	殺撲	現旬	在數
	患	新	患	計									
戰傷	二	一	九	四	一				一			一	〇
傳染病	一	三	〇	四	二				五			二	七
平病	七	四	九	八	二				三			五	五
計	五	八	一	〇	二				一			六	一
													二

昭和十二年十月自三行日部隊病馬旬報  
第六師團獸醫部  
於海月一癸

區分	舊患	新患	計	恢復	輸送	預託	斃死	疫殺	現存數
戰傷	九		九	四	一				四
傳染病	二七	五七	八四	三八	七		二	一	三六
平病	五三	三二四	八八七	三九四	一四二		三四	一一	三〇四
計	五九九	三八一	九八〇	四三六	一五〇		三六	一二	二四四

備考一 未看部隊醫六ノ三中隊トス  
三本表中主要ナル病名員數左ノ如シ

病名	新患	斃死
腺疫	五四	
強直病	三	三

三馬衛生一般ノ狀況

本旬ハ滞在及轉戰命令ニ依ル汽車輸送及船舶輸送ニシテ二十三日石家莊ヨリ遂次塘沽向ヒ汽車輸送シテ十六日ヨリ塘沽其ノ他ヨリ乗船ヲ開始セリ 馬糧ハ主トシテ兵站ヨリ支給セラレ大麦燕麥ノ類ニ等シ給セリ 滞在間ハ極力榮養ノ恢復ニ努メ殊ニ青草人參ノ等シ多給シ衰弱セテ体力ノ恢復ヲ計リ輸送ニ望ムハク努力セリ 病馬ハ主トシテ馬具傷及呼吸器病等トス 裝蹄ハ滞在間大部ヲ完了セリ 防疫ニ関シテハ防疫隊員ノ援助ヲ得炭疽及白鼻疽検査接種等ヲ管下ノ全馬ニ對シ實施セリ 腺疫馬ノ轉送ニ對シテハ殊ニ注意セリ

四其他ノ意見 ナシ

五師團病馬收容所ハ前旬ニ閉鎖ス

昭和五年青島自一〇部隊病馬旬報

第六師團 獸醫部  
於 蘇 湖

區分	舊患		計	快復	軟送	預託	斃死	廢役	撲殺	尙未 現在數
	患	新								
戰傷	四		四							四
傳染病	三六	三三	五九	二八	二					二九
平病	三三	二四	四七	一八一	七					二〇八
計	三七	二七	四八九	三〇九	九		二二	八		二四一

備考 一旬報未着部隊元記、通付更ニ後報ス  
 死ニ本部及師隊段列、師團通信、輜六、三中隊、第二野戰病院

ニ本表主要ナル病名員數九ノ如シ

病名	新患	痊斃數
腺疫	二	三

馬衛生一般狀況

師團大部馬匹ハ船舶輸送ニシテ、師部以下ニ對シテ、特ニ輸送ノ衛生ニ注意ヲ喚起セシメタルモ、此支、汽車輸送ニ引續ク長期船舶輸送、馬匹數ノ漸次減少及消化器病等ニ依リ、斃死馬匹ヲ見ル。又一部馬匹ハ杭州灣ヨリ海月庵ニ上陸、金山、黃浦江方面ニ戰斗ニ參加ス。行動ノ用始メリ一般道路ハ平坦ナルモ、陸道狹隘加フルニ雨又泥濘、滑リ且ツ滑リ、クワリク等ニ墜スルノ情況ナリ。馬糧ハ船内ハ船内給與、其他ハ現地調製ノ粗糲、甘藷大豆等ニシテ、各部隊ニ於テ散在給與セラルモ、意、如キラス、頗ル不満足ナル情態ニ陥レリ。之カ爲馬匹ニ蒙ホリシニ、甚大ナリ。水質ハ質良好ナラザルモ、クワリク、水ヲ用ヒ、豊富ナリ。

四病馬、裝蹄及防疫ノ概況

此支以來、全支中、甚多自性疫患馬ハ長期輸送ニ依リ、体力衰、遂ニ腺疫ヲ誘、發ス。至レテ、以テ極力豫防制遏ニ努力ス。裝蹄ハ、輸送中、甚多、蹄底、硬化、然ルモ、前旬、石、系、壯、ニ於テ、各部隊、大部、ヲ、管、理、セ、テ、爾後、行、動、ニ、又、支、障、ナシ。五、其、他、之、意、見、トシ、六、師團、病、馬、収、養、所、ハ、開、設、シ、テ、ラ、ス。

昭和三十二年五月十一日部隊病馬旬報

第六師團獸醫部 菅 朔

區分	舊		新		計	快復	斃死	療養	撲殺	現在數
	進	退	進	退						
戰傷	4	4	4	8	10	3				3
傳染病	29	4	33	10	37					3
平病	25	14	34	9	37					3
計	58	22	80	21	100	3				3

備考 一旬報中看部隊九記、通二付更ニ後報ス  
 騎六砲六本部及騎隊被引師團通信船ニ乗隊第三野戦病院  
 二本表中主要ナル病名員數尤ノ如シ

病名	新進	療養	斃死
脚	4		

馬衛生一般状況

師團大部馬(行李騎重及砲六隊馬)ハ杭州湾ヨリ更ニ上海ニ廻航向未  
 於テ大部揚陸ヲ實施セラルル状況ニテ乘船實ニ十日以上及ニ率  
 備馬糧飲水等ニ不足ヲ未ダシ海水上飲用ニ乏ル窮地ニ陥レリ故  
 此カ感作甚大ニテ輸送性及消化器疾患多ク發シ斃死セルモノアリ  
 一方海月鹿上陸セル部、馬(主トシテ戰列部隊)馬(主トシテ砲六隊馬)將  
 校兼馬行李騎重馬(主トシテ砲六隊馬)現地調習ニ依ルモ此方相  
 違ニ主曲産物ハ米ニシテ馬糧ニ微少ニシテ甚ク困難ヲ感セリ。故ニ  
 主馬糧(穀類)米等ニシテ稀ニ小麥、大麦、粟等ヲ充見セリ。給セル  
 状況ニシテ質ニ劣ルニシテ堪ハサル状態ナリ。行動道路ノ平坦ナルモノ  
 新設道路(場所)在リテ亦、所アリニシテ折々降雨ニ際合シ道路  
 ハ實ニ泥日、觀望ノ至ニ犯ル及騎重行李ヲ如キハ一日ノ行程僅ニ二三  
 十サトルアリ。新状況ニテ飼料ト勞動、調和ヲ失シ之カクノ馬匹、家リル  
 患患作ハ實ニ甚大ナリ。經過主道路ハ金山衛城、板江、金山鎮、前浦  
 魚山道ニテ皆山隘路後更ニ自道路ヲ逆行シ、甚ク惡劣ニ向テ行動ヲ開始  
 セリ。飲水ハカリカリ水ヲ使用豊富ナリ。此、間特ニ部隊ニ要求セル事  
 項、粗飼料、及運入(草)等、多ク給並ニ切葉、糞糞等ナリ  
 四病馬及止飲、防疫、概況  
 病馬ハ主トシテ前記ノ如ク、概況ニ依リ、療養病、治癒者、甚ク少ク、及  
 治癒者、主トシテ、治癒者、主トシテ、治癒者、主トシテ、治癒者、主トシテ、  
 照会ニ對シテ、隊防手段ニ就テハ、實ニ其ノ實施、確行ニ努力セリ

五、其他意見  
 現地、状況並ニ行動迅速ニシテ、糧食、彈藥、補給特ニ馬糧、全ク終  
 全ク馬(一)能力低下セル。鑑ミ將來之カ補給法ニ八萬全ノ方策ヲ必  
 要トス  
 六、師團病馬收容所ニ開設シテス



昭和十五年十月三十一日部隊病馬旬報

第六師團獸醫部

區介	舊患		新患		計	快復	轉送	預託	斃死	療養	殺害	現在數
	舊患	新患	計	計								
戰傷	三	一	四	二					一			一
傳染病	二一	一五	三六	一一					八			一六
平病	一七七	二二五	四〇二	一〇八	四			九二	二七			一七五
計	二〇一	二四一	四四二	一一三	四			九二	二七			一九二

備考

一旬報未著部隊左記ノ通ニ付更ニ後報ス  
 病院 六 本部及聯隊隊列 師團通信隊 輜六 四中隊 第二野戰

本表中主要ナル病名員數左ノ如シ

病名	新患	療養	殺
流行性感冒	一〇	四	一

三馬匹衛生一般ノ狀況

杭州清江浦上海南京等處ハ馬匹本旬ヲ以テ全部揚陸ヲ完了ス爾後  
 一 方貴山ヨリ引込タル馬匹ハ松江金山嘉善嘉興平望鎮湖州  
 道ヲ南京向ヒ行動セリ道路ハ平坦降雨アリタルモ比較的良好ナル堅道ナ  
 リキ馬程ハ依然兵站ノ補給ニ依ルヲ得ス部隊後發ノ概及小量ノ  
 小支大支大豆等ニテ馬匹將來ノ保便ヲ慮セル次第ナリ  
 現況馬匹ノ栄養及體力頗ニ衰ハタルニシテ馬匹ノ許ス限リ之ヲ保護ニ努  
 めルハ切要ナルコトヲ認メ水ヲ使フ量亦豊富ナリ  
 四 病馬ノ裝蹄及防疫ノ概況  
 病馬ハ主トシテ前記原因ニ依ル過勞、鞍傷、蹄葉炎、消化器病等ニシテ  
 裝蹄ハ崑山上海松江嘉善等ニ於テ一部ヲ完行シ第一線部隊ハ引續  
 キ行動ノ關係上裝蹄運送ノ相當數ノ落鐵馬ヲ發生セリ各隊ニ於テ兵ハ  
 疲勞困憊ノ長ク歩キテ服利用之カ改裝及釘締メノ勵行ニ努メタル結果  
 幸ニ行動ニ支障ハ未ダサリキ  
 五 腹疫ハ前記セル如ク馬匹ノ體力損耗大ナリシト不良天候等ニ罹ラレ若キノ  
 増發ヲ見タルモ病性一般ニ良好早期發見處置ノ勵行ニ努メタル

其ノ他意見

野戰蹄鐵工具及戰用蹄鐵ノ改正意見ニ關スル詳細ナル理由ハ後日  
 一 諸君野戰蹄鐵工具箱ノ内容品一部ヲ除去シ重量ノ軽減ヲ行ハレ  
 如ク立案ホレ又戰用蹄鐵ハ現制靴靴數區分ヲ倍加シ一例之現製ノ三號  
 三號間ニ之ノ中間大ニ相當スル靴數ヲ設クルコト且上着ヲ附設シ鐵尾  
 フ切前セルモノヲ準備シ置クハ必要ヲ痛感ス  
 六 師團病馬收容所ハ設置シテス

昭和五年五月一日部隊病馬自報

第六師團司令部  
 於 蘇州

區分	舊患		計	恢復	轉送	預託	斃死	瘡役	撲殺	現存
	舊患	新患								
戰傷	1	12	13	2			4			5
傳染病	1	8	9							1
平病	17	16	33	5	1		7	1		21
計	19	36	55	7	1		11	1		33

備考 一 自報未看部隊左記、通二付更ニ後報ス

騎六砲六本部及聯隊隊列師團通信隊轄六三三隊第三野戰醫院  
 本表中主要ナル病名及員數左ノ如シ

病名	新患	瘡斃
流行性感冒	4	4

馬衛生一般ノ状況  
 本自報以上各部隊、昼夜兼行行軍ノ實施ニ戰キテ、前々々々馬正ノ勞働劇甚ナリ、ト云ルニ給テ、前自報ノ如ク、戰況進ハニ益々急シク、行軍ノ爲ニ馬正ノ衰弱、食料ノ不足、及テ、前進セリ、道路ノ級坂路ノ多ト云レ、比較的良好ナル堅道ナリキ、飲水、カリリ、及河水等ニテ、豐富ナリ

四病馬、衰弱及防疫ノ概況  
 病馬、予ニテ戰傷、過勞、腰痠、蹄癩、及、馬具傷等ニ、消化器病等、飼料、投與方面、未ニ損耗馬トシ、衰弱、如、實地ニテ、得テ、改裝期、遂ニ加ヘ、此等ニ比較シ、堅道ニテ、蹄、軟、磨、甚、シ、ク、若、ク、數、ク、生、セ、シ、豫、備、蹄、鉄、ヲ、利用、シ、カ、ル、ヲ、以、テ、行、動、ス、ル、ヲ、求、メ、サ、ル、ナリ

五其他意見  
 六 加團病馬收容所、本自報ヨリ開設ス  
 七 師團病馬收容所、收容病馬在、如シ

昭和五年五月一日部隊病馬自報

區分	舊患		計	恢復	轉送	預託	斃死	撲殺	現存
	舊患	新患							
戰傷	1	12	13	2			4		5
傳染病	1	8	9						1
平病	17	16	33	5	1		7	1	21
計	19	36	55	7	1		11	1	33

昭和十二年五月十日部隊病馬旬報 第六師團獸醫部

區分	舊患	新患	計	快復	轉送	預託	斃死	廢役	撲殺	旬末現在數
戰傷	五	一〇四	一五五	四	七	二	五	一〇		七一
傳染病	一八	六	二四							一一
平病	一九三	三三三	五二六	六五	二四	二	六	七		三五六
計	二六二	四三三	六九五	八一	三一	四	一一三	一七		四三八

備考一旬報未著部隊ノ通ニ付更ニ後報ス  
 第六師團第六師團及聯隊隊列及第一大隊ニ六師團通信隊第六三四隊  
 第二野戰病院  
 二本表中主要ナル病名員數左ノ如シ

病名 新患 斃死 撲殺  
 流行性感冒 六  
 三馬衛生一般ノ狀況  
 本旬後方部隊ハ師團主力ニ追従スルニ急行軍ヲ安メテセリ  
 戰列前線ハ深ク林陵間道ヲ南進スルニ至リ之ヲ猛攻手ヲ開始シ  
 十三日南進ヲ停止セリ十五日南進ヲ再開シ  
 經過道路ハ一般に良好ナルモ南進中ニ全部隊ノ馬糞ヲ掃除セリ  
 七日前線アリタルモ依然困難ナル狀況ニアリシヲ以テ現地調査ヲ周  
 密ニ行ヒ之レカ多ク注意ヲ用ヒタリ

四病馬 裝飾及防疫ノ概況  
 病馬ハ主トシテ戰傷ノ馬具傷ノ過勞ノ蹄世ノ及者化毒病等ニシテ  
 裝飾ハ一部ヲ完了セルノシテ以テ爾後速カニ改善ヲ圖ルニシテ  
 五期ノ他意見

臨時病馬廠及病馬收容所ノ收容病馬左ノ如シ  
 十八日南京ニ於テ從來ノ病馬收容所ヲ解散セシメ新ニ增加セラレタル  
 馬廠要員ノ主旨ニ鑑ミ馬廠ノ全員ヲ以テ臨時病馬廠ヲ編成シ  
 病馬ノ收容ヲ兼テ裝飾材料ノ補給等ヲ擔當スルニシテ

昭和十二年五月十日入廠病馬旬報

區分	舊患	新患	計	快復	轉送	預託	斃死	廢役	撲殺	旬末現在數
戰傷	二六	二六	四	六			四	二		一〇
傳染病	一	一	二				七	四		五一
平病	一〇	一〇四	一一四	六	五六		一一	六		六一
計	一	一一三	一一四	一二	五六		一一	六		六一

快復未交付馬ノシ 傳染病ハ除疫トス

昭和三年六月三日部隊病馬旬報 第5師團獸医部 湖

区分	舊患	新患	計	水痘	痘	霍乱	傷寒	敗血症	自來水
戦傷	七三		七三	五	四				二二
傳染病	一一	一	一二	八					四
平病	四五	五	五〇	三三	三一				四一七
計	一二九	六	一三五	一一六	一一				四四三

備考

一、旬報未着部隊  
二、本表中主要な病名員數記し如し

病名	新患	総斃殺
強直病	一	

三馬衛生一箇状況

南京衛隊後師團八南京大平着燕湖宿國ノ線ノ警備ニ任セラレ部隊八六ノ行軍ニ任地ニ到リ警備ニ着ケリ  
馬種ノ供給十分ナラズニ部隊ハ現地調練ニ成リ戦時足量ヲ給スヘク努力セリ  
飲水ハ豊富ナリ 気温ハ水旬ヨリ極ニ降下シ之カ復削過  
勞馬ニ與ヘシ不良感作ハ甚大ナリ 目下假設ニ蓋厩ノ構造ヲ要ス中ナリ

四、病馬及裝蹄防疫ノ概況  
病馬ハ主トシテ瘦削通過勞馬具傷等トシ裝蹄ハ改裝邊  
延シアルモ蹄鉄ノ供給ニ爲殆ト實施スルヲ得ス  
五、其ノ他意見  
干草、燕麥、蹄鉄、蹄油等ノ供給ヲ迅速ニセラレ度  
第六師團臨時病馬廠以答病馬九ノ如シ

昭和三年五月三十一日入廠病馬旬報

区分	舊患	新患	計	水痘	痘	霍乱	傷寒	敗血症	自來水
戦傷	一〇	六	一六	三	二				二
平病	五一	二一	七二	四	八				一〇
計	六一	二七	八八	七	一〇				四

備考一、水痘未着付馬五頭ナリ